

▽取組事例名	地域主導型公民館への移行	▽取組期間	平成18年度～ (継続中)
		▽市町名	新居浜市

▽取組概要

小学校区毎にある公民館を、地域住民主導で社会教育と地域づくりの拠点として活用するために変革した。従来、正規職員の公民館主事を配置していたが、地域人材の非常勤職員主事に転換し、併せて、地域課題解決型の新たな組織づくりや人材の育成を推進することで、当事者意識を持った新しい公共の担い手として公民館を再構築した。

▽取組みの背景

平成に入り、生涯学習の振興が叫ばれ、個人の学習要望の充足に重点が置かれ、社会の要請に応える社会教育施設としての公民館の機能が弱まっていた。3～4年の人事ローテーションを強いられる正規職員の場合、公民館活動の連続性が確保しにくい状況も生じていた。学習の成果を活かし、地域社会に必要とされる公民館を目指して、地域住民の主体性が尊重される地域主導型公民館を推進することで、受益者意識を脱却し、当事者意識を持った地域への転換を図り、地域力の醸成を目指そうとしたものである。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

個人の学習ニーズを充足することに重きを置いた趣味や教養重視の公民館イメージを払拭し、社会の要請に応え、地域の様々な課題を住民の主体的な取組みで解決を図る拠点となる公民館に変革すること

(具体的内容)

平成18年度～19年度に公民館の現状把握と将来像について協議するために、住民を巻き込み『公民館ルネサンス塾』を開設した。平成20年度からは、地域の申出によって段階的に地域主導型公民館へ移行を図った。(H20年度4館、H21年度2館、H22年度6館、H23年度2館)

具体的な内容は以下の通り

- ①従来は市の正規職員だった公民館主事を非常勤職員に切り替えたこと (16人)
- ②非常勤公民館職員に専門性を付与するために研修を実施した。(社会教育主事講習受講)
- ③地域課題を住民主体で解決型の新たなまちづくり組織を構築したこと
- ④地域課題を住民が解決するための新規事業を創出したこと
- ⑤「熟議」(ワークショップ)の手法を活用した住民参画を促す運営方法を採用したこと
- ⑥従来の研修を変革し、先進地との情報交換会を組んだ新しい関係構築を図ったこと
- ⑦地域の実態に応じて、公民館運営審議会の体制を整備したこと(15名枠を20名枠に拡大)
- ⑧公民館の施設環境の整備促進(人件費の減少金を利用しやすい環境づくりに充当した。)

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点(苦労した点)

- ①従来の公民館体制を墨守しようとする層に対して説明責任を果たすこと。(正規職員から非常勤職員に移行することが、単なる人減らしではないことを理解してもらうこと)
- ②地域の潜在的な人材発掘と育成、非常勤職員の資質向上、モチベーションの向上
- ③公民館イメージの転換を周知すること(生涯学習の拠点から地域づくりの拠点へ)

☆工夫した点

- ①すべての公民館を一律に移行させるのではなく、地域住民の地域主導への意思が固まった公民館から順次移行を図った。先に移行した館の状況を見て判断する余裕をもつこと。
- ②人材育成については、国の社会教育主事資格の取得を目指すこととし、愛媛県教委の支援を受け、国立社会教育実践研究センターの社会教育主事講習インターネット配信のサテライト会場として実施している。（3ヶ年で資格取得を原則とし、現在4名が取得済）
- ③ワークショップ（熟議）を多用し、住民が主体的に公民館活動に参画する仕組みを醸成した。熟議を円滑に推進するために、ファシリテーター養成を図った。

▽取組みの効果

- ①公民館が高齢者、主婦層をターゲットにした学習施設というイメージから地域課題解決に向けて取り組む活動拠点の要素が高まりつつある。行政の抱える課題（環境・福祉・子育て支援・防災など）を地域で解決していこうというムードが高まり、行政との協働による事業も生まれてきた。
- ②従来の諮問型の組織から、テーマ解決型の実践する組織が地域に生まれてきた。
- ③行政職員に対する依存体質から、自分達が地域を創るという気概を持った自主自立の体質に転換してきてきた。
- ④地域に対しての愛着が強まり、新しい地域づくり活動が生まれてきた。
- ⑤これまで職員の人事異動によって不連続になりがちだった地域活動に連続性が生まれた。
- ⑥非常勤の公民館職員、地域リーダーの資質が高まり、新たな人材も生まれてきた。

▽住民（職員）の反応・評価

- ①移行の際には正規職員がいなくなることへの不安があったが、既に4年を経過し、不安は解消されたようで、逆に自らが企画立案することでモチベーションが高まった。
- ②公民館を拠点として住民自らがまちづくりの担い手となることによって自己実現が図られ、成功や失敗を経験することで住民力が高まったという評価が聞かれるようになった。

☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

現在5年目を迎えた公民館と2年目の公民館では活動への温度差もあるようである。新しい仕組みや人材確保が今後の活動継続、発展には欠かせない。今後とも成功体験、失敗体験を共有する場を設け、良き事例をベンチマークすることが大切だと考えている。また、市外の先進事例を学ぶ機会を拡充することによって、自分達の活動を客観視することがさらなる向上につながる良き機会になると考える。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

公民館の存在意義は何かを考え、目指すべき姿をわかりやすいビジョンに整理する必要がある。そのために、地域住民が熟議できる場をつくり、住民手づくりの地域計画が策定できれば、行政と公民館を拠点とした地域との新たな関係性が見えると考えている。行政課題の解決を全市レベルで一括して行うことは難しい。地域の特性を踏まえ、公民館（小学校区）において実証的に取組み、その成果を踏まえ全市展開する手法を考えたい。

（他団体の方へのアドバイス）公平公正を唱えすべて一律に変革を行うよりも、一定の準備期間を設け、段階的に取り組む手法の採用も必要と考える。これまでの護送船団方式で行ってきた行政手法について、もう少し柔軟性を持って多様な手法を容認してもよいのではないかと。各自治体にはこれまでの歴史があり、一律に捉えることは難しい。しかし、もっと情報交換を行い、共に磨き合ってよりよい改革を目指すべきだと考える。行政はともすれば変化を好まない傾向があるが、環境変化を前向きに受け止め、一緒に乗り越えていくことこそ大事と考える。同じ志を持った県内のネットワークを結成したい。